

※掲載はファミス会員であることが条件で、掲載料は無料です。



\*日程・内容は変更される場合があります。  
最新の情報は各主催者へお問い合わせください。

### 第27回 凧の会展

2025年1月7日(火)～1月12日(日)  
一般展示室 1～4

29名のメンバーにより絵画を中心に彫刻・工芸(人形・陶・染色等)パリエティに富んだ力作約200点展示予定。さらに今回から希望会員による個展を同時開催。初回は、代表の黒田秀方(96)の回顧展。ご期待ください。



前回の会場風景とメンバー

### 第15回「彩の会」

女子美術大学同窓会埼玉支部会員作品展

2025年2月18日(火)～2月23日(日)  
一般展示室 1

隔年開催しています女子美術大学同窓会埼玉支部展は今回15回目を迎えます。同窓生による幅広い世代の作品を一堂に展示いたします。多くの方にご高覧頂きますようお願い申し上げます。



前回の会場風景

### 天使の旅 ～中村徳男・水彩画展

2025年2月18日(火)～2月23日(日)  
一般展示室 4

デザイナー、画家である中村徳男、待望の個展。「天使の旅」をテーマに天使の目線で色んな国や場所へ旅をしています。繊細な細密ペン水彩画で描き起こしています。その他、癒される水彩画約40点を展示いたします。



リリースのご案内

### 第50回記念埼玉書道三十人展 ・併催俊英展

2025年3月4日(火)～3月9日(日)  
一般展示室 1～4

日本書壇の第一線で活躍する県内在住の作家の中から厳選された30人による埼玉書道三十人展。第50回展を記念し、55歳以下で県内在住の俊英作家による作品展示と作家愛蔵の書画篆刻文物展を同時開催します。入場料無料

### 新芸術第14回東京ワークス展

2025年3月25日(火)～3月30日(日)  
一般展示室 3

毎年11月に東京都美術館においての公募展、「第48回新芸術展」を開催した新芸術協会の関東在住メンバー中心の展覧会です。自由な作品内容での展示を目的として今年で14回めとなります。ぜひご高覧ください。



新芸術協会会長 加藤陽夫「草想『蒼月』」

### 鈴木千賀子の世界展

2025年4月1日(火)～4月6日(日)  
一般展示室 3

「生きとし生けるものへの讃歌」宮沢賢治の童話の世界を中心に、木彫、陶彫、創作人形で表現。他に、祈りの造形、人と動物たちとの共生の姿を、約40点、展示致します。どうぞ楽しいひとときを、お過ごし下さい。

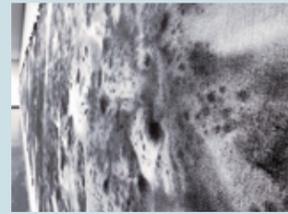


宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」より

### ヨシズミトシオ個展 ありあるクリエイションズ 藝術企画

2025年4月15日(火)～4月27日(日)  
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴きましたら幸いです。



前回の会場風景

### 第28回 二科埼玉支部展

2025年4月29日(火)～5月4日(日)  
一般展示室 1～4

二科埼玉支部所属作家の作品発表の場であり、同時に支部主催の公募展に応募された作品の発表です。絵画、彫刻、デザイン作品、約200点を展示する予定です。応募を歓迎します。



前回の会場風景 (彫刻会場)

### 賛助会員名簿／私たちは美術館を応援しています

(2024年10月1日現在)

#### 特別賛助会員

(株)アライ設計  
(株)ガロ  
税理士法人さかえ会計  
(株)テレビ埼玉  
(株)細井技研  
(株)万世  
メガソーラー機構

浦和興産(株)  
埼玉画廊  
(株)榎住建  
DAY HAPPY  
松田産業(株)  
(株)武蔵野銀行

(株)エフエムナックファイブ  
(株)埼玉りそな銀行  
南上州屋リビング  
日本畜産興業(株)  
丸沼芸術の森  
(株)明成 へべろネ

#### 法人賛助会員

海游舎  
埼玉書道三十人展実行委員会  
(一社)新構造社 埼玉支部  
凧の会

(株)ギャラリー藤井  
埼玉二紀会  
二科埼玉支部

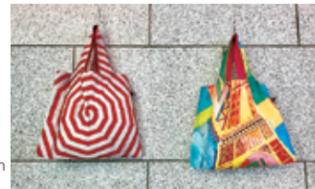
(株)コア  
CAFN協会  
見沼100年構想の会

#### 個人賛助会員

一瀬 謙輔 岡田 謙司 岡部 美代子 加藤 正宏 小松 弥生 小森 光子  
鈴木 千賀子 高崎 考一 高橋 碩子 滝沢 布沙 野口 真理 廣澤 公太郎  
丸山 晃 横尾 嘉子

### fam.s museum shop 便り

個性的なミュージアムエコバッグのご紹介です。ドイツのLOQI社で企画デザインされています。誰もが知っているような有名絵画から現代に活躍するアーティストの作品まで100以上の柄があり、選ぶこと、持つことが楽しくなります。  
素材は、工場等から出される不要な繊維を集めケミカル処理された、循環型再生ポリエステルです。ダイナミックにデザインされたエコバッグ。その日の気分を変えてみたり、コーディネートに差色にしたりと楽しんではいかががでしょうか。(T.Y.)



2,420円(税込)  
サイズは縦42cm 横50cm  
(持ち手を含むと69cm)

ファミス通信 第52号 2024年11月発行  
広報委員◆秋本圭美/安藤恭子/野口恵子/森幹枝  
紙面デザイン◆木村昭司  
発行者◆埼玉県立近代美術館フレンド事務局  
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内  
tel 048(824)0111 fax 048(824)0119



### fam.s (ファミス) とは

### About fam.s

埼玉県立近代美術館フレンド (friends of art museum.saitama) の愛称です。fam.s会員は、会員期間内の企画展・常設展を何度でも観覧できます。会員限定のギャラリートークやイベントのお知らせ、ショップなどの優待もあります。入会は随時受け付けています。詳しくはフレンド事務局までお問い合わせください。HPはこちらから▶



※ファミス通信は年2回、5月と11月に発行しています。



入江明日香《La saison des fleurs》(2022)

銅版画と絵画 自由な表現の可能性をめざして

銅版画家 入江明日香さん インタビュー

入江明日香さんの作品は、単純な銅版画ではありません。支持体に鉛筆で下絵を直接描き入れ、銅版画や写真製版で色刷りした和紙をコラージュし、水彩絵具で着色していく。

時には墨を使い、自身の「書」も取り入れたモノトーンの世界も創作。コラージュによる作品はすでにプレス機の枠を越えて、ますます大きくなり、独自の世界を創り上げ、新しい風をおこされています。

入江さんの創作の場である丸沼芸術の森のアトリエに伺いました。



**Q1** 当館で開催した「美男におわす」展(2021年)では《L'Alpha et l'Oméga》《廣目天》《持国天》を出品いただきました。展覧会のお話をいただいて、実は普段から「美男」を意識して制作しているわけではなかったので、自分の作品が美男に見えるかどうか不安でした。《廣目天》と《持国天》については、自分がイメージする自分のスタイルで描いています。天平時代の仏像を目の前にして、どうやって現代の人間に変えて描こうかという悩みがありました。最初に描き始めたのが《廣目天》でした。廣目天のポーズを見た時に、なんとなく男性で描いてみようと思ったんです。これなら!と思って《持国天》と共に出品しました。

**Q2** 入江さんの絵の中には動物たちが登場しています。自分の好きな動物はだいたい決まっています、鋭い爪やクチバシを持ちながらも、毛並みがふさふさしているという対極に位置する素材を持つ動物が好きです。オオカミ、トラ、ヒョウ、ワシ、タカ、ニワトリとか。特にスズメはかわいくて、鳥のなかでもけっこう好きでよく描きます。ふわふわしてあんなにかわいいのに、爪やクチバシは鋭いですし、目もキリッとしています。ころっとしているけど鋭いとか、そういうギャップのある動物が好きなんです。

**Q3** 色彩の美しさに惹かれます。基本的にカラーインクは、インク同士の色を混ぜないで使います。ローラーで一色を出して、銅版の上で色と色をレイヤーみたいに重ねています。重ねて、重ねて、色がプリントされるみたい。パリに留学していたときに、版画工房のディレクターから「混色は絶対にだめだ!」と言われました。混色をすることで、インクのオリジナルのきれいな色を殺してしまう。そうではなくて色は重ねる。それがヘイター刷り(一版多色刷り)なんだということを教わりました。パリに行かなければわからなかったことです。インクの粒子の違いで色の出方が違うとか、版画のローラーに使うインクは粒子の細かいインクだとか、版材の銅板に彫った線に詰めるのは粒子の粗いインクじゃないとだめだとか、そういった基本を教わりました。



秋の展覧会出品作品の前で

**Q4** 素材に「箔」も使われています。近頃の「箔」は、金や銀の他にカラフルなものがたくさんあります。「箔」をそのまま使うのは大変なので、一度薄い雁皮紙に貼って、シート状にしています。この状態であれば、どんなに小さなカタチでも自由に貼ることができます。絵の具では表現できないインパクトもあります。「箔」は変色する可能性もあるんですけど、変色したらそれはそれでいいかなと思っていて、半分実験をやりつつ、興味をもったものは取り入れてやってみようと思っています。



**Q5** 毎年目標をたてているそうですね。今年は「リトグラフ」です。委託している工房さんとコラボレーションをして、自分の描いた下絵からモノクロのリトグラフにまずしてもらって、そこに彩色をして。エディションを30枚作るとすると、そのうちの10枚は手彩色でやろうと思っています。銅版画だけでなく、リトグラフにも手をのびたいと思って制作中です。どんどん作家も変化していかなくちゃいけないという思いが常にあって、何か新しいことをしなきゃと思っているんです。この先巡回をするような展覧会があれば、各会場に合わせたテーマを決めて、それに沿った作品を出品して、見てくださる方が各会場を追いかけたいかなと思うような、そんな展覧会にしてみたいですね。

挑戦してみたいことがたくさんあって、頑張らない!と楽しそうに話されていた入江さん。新たな作品に注目です。



入江明日香さんの《廣目天》 ここが知りたい!

《廣目天》の着想源となったのは、東大寺戒壇院戒壇堂の国宝「四天王立像」の一体で、天平期の彫刻。仏法を守護する四天王はそれぞれ怒りの表情を見せて、邪鬼を踏みつけています。なかでも、イケメン!と人気なのは西方の守護神廣目天だとか。入江マジックにかかった作品《廣目天》を解説していただきました。



**★「眼」は要!**  
最初に「眼」を描きます。「眼」が決まるとテンションが上がって他の作業も上手くいきます。視線は見る人の背後へ。両眼は差を出して、ひとつは今の世界を見ている人間の眼、もうひとつは赤く死の世界を見えています。

**★お供はシベリアンハスキー**  
何か動物を置きたい...と考えながら、溜めておいた資料を眺めてイメージを膨らませました。廣目天のポーズとマッチして、なにか同じ目標を持っていそうな感じのするハスキーを選びました。

**★ハスキーの脚が椿へ...**  
脚がだんだん変化をして花になるとか、そういうカタチの変化も含めて、見ていると不思議な雰囲気を感じる作品を目指すようにしています。

**★落款は総手書き**  
絵のなかの文字や落款に見えるものは手書きです。絵に合わせた落款にしてみると面白いかなと。書は保育園のころから続けていました。近くにいるミニキャラも作品の一部として見てもらえると嬉しいです。

**★風を感じるコスチューム**  
日本のひと昔前の時代の洋服や、ヨーロッパの貴族の装束をヒントにして絵の雰囲気に合わせて衣装を描いています。風景などを入り込ませたりもしています。

**★しろいねこ**  
私の絵によく登場するこの子は、20年飼っていたねこなんです。絵の中で真似したり、邪魔したり。メインとこの子のようなサブのキャラクターが上手く存在するように描いています。

**★ここにも廣目天!**  
東大寺の廣目天と同じポーズをしている小さいやつ。絵の中にいろいろな情報を入れて、これなに?と面白がってもらえたら。



Asuka Irie  
入江明日香  
1980年東京生まれ。さいたま市在住。銅版画家。埼玉県立大宮光陵高等学校美術科卒業。多摩美術大学大学院博士前期課程美術研究科版画領域修了。2012年文化庁新進芸術家海外研修員としてフランスに滞在。今春、二作目の作品集『雷鳴と花』(東京美術)出版。プロジェクトマップピングin築地本願寺では作品が撮影された。

ファミス探訪会「成城学園周辺を歩く」 伊豆井 秀一

2024年5月25日(土) 小田急線 成城学園前駅に集合し、学園町として開発された「成城」の住宅街を巡りました。コース設定からレジュメの制作、解説をされた伊豆井さんにご寄稿いただきました。

美術館に勤務をしていた当時、「近・現代建築探検ツアー」という事業を10年以上担当し、かなり多くのたてものを見る機会がありました。建築界では垂涎的と言われるような個人住宅から企業の抱えている建築まで、なかには通常ならば入ることのできない大使館も含まれており、ツアーの講師から見学できるのかと心配されたこともあります。こうした見学が可能になったのは、埼玉県立近代美術館の事業だからということになります。

今回のファミスの探訪会で訪れた世田谷区内の小田急線や近くの京王線の周辺は、戦前から開発されてきた土地柄でもあり、訪

れたい近現代の建築の多数ある地域です。以前訪れた時とは少しずつ景観も変化しており、消えている建物もありました。ツアーの為に選んだ4つの建築は、吉田五十八という著名な建築家が設計をした住宅や、今井兼次郎の設計による教会も含み、バラエティに富ませたところもあります。

ツアーに参加されていた皆さんは、見学した4つの建築では「旧猪股邸」に強く魅かれたようでした。新興教奇屋という伝統的な和風住宅と現代建築との融合を目指した吉田五十八の作品です。通りには何の看板もない住宅街の一角。瀟洒な門をくぐると緑の向こうに和風住宅が待ち構えます。床に敷き詰められた玄昌石の玄関からあがり、居間に入るとそこから眼前に庭が一面に広がり、見事にあげられた空間に身を置くこととなります。やがて、伝統的な和風住宅にある吊り束や欄間がなく、部屋を支える柱もな

●探訪会コース: 成城学園前駅→成城カトリック教会→世田谷美術館分館・清川泰次記念ギャラリー→旧猪股邸→旧山田家住宅 fam.s Tour

く戸や障子がすべて織り込み戸に収納され、余計な線が消されていることに気付くのです。さらに室内を巡るにつれ、立った際、座った時の視線の位置への配慮、室内の凹凸をできるだけ抑えてすっきりと広やかに見せる工夫や、屋根の高さを抑えるために各部屋にかかる屋根の構成を考えるなど、随所に施主の意向を介しながら綿密に設計したことに関心させられます。

このツアーをきっかけに、私も本棚に埋もれていた吉田五十八の『饒舌抄』(中公文庫)という随筆集を改めて読み直し、新しく気付かされたところもありました。興味のある方は手に取っててください。風景や歴史も街歩きの楽しみですが、建築について少しでも関心を持ちますと楽しみ方が広がってきます。それもこのツアーの目指すところでもあるのです。



いずい、ひでかず  
伊豆井秀一 (1949~)  
埼玉県立近代美術館退職後、地域美産研究会、NPO法人小川町創り文化プロジェクトなどで活動。小川町では紙を素材とする韓国の作家を招聘し、アーティスト・イン・レジデンスを担当。埼玉県住まいづくり協議会の広報誌『Smile 通信』で、県内市町村の「さいたまの住まい」を15年ほど紹介している。

旧猪股邸 (上: 門 下: 庭園) 清川泰次ギャラリーを説明する筆者(左端)